

【令和3年度研究テーマ】

「学びに向かう力を育成する社会科指導の工夫」

1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

①評価場面の工夫

- ・ 単元ごとに用語。語句テストを行い、「知識・技能」に特化したテストを実施
- ・ 次の単元の見通し（単元を貫く問い）を事前に提示し、今日までの学びの中で生かせそうな知識や技能、見方や考え方がないかを話し合った。
- ・ レポートテスト（難しいもの）を学期に2回。
- ・ タブレットを活用しての調べ学習を毎単元取り入れる
- ・ 知識を関連づけて考える問題を作る。

②評価方法

- ・ 文章だけでなく、地図への書き込みなど、文章力ではないところの評価。
- ・ 意欲的・主体的にできるように単元のまとめの活動を紙やIPADの選択だけでなく、文、図表、地図、ポスターを選択。

②Cの生徒への手立て

- ・ 心配な生徒への声かけ、指導、フィードバックを行った（形成的評価）。

③振り返りの工夫

- ・ 自分がどの視点で捉えたのかを書かせ（自己評価）、仲間からアドバイスさせ（相互評価）、次の学びに生かすことを考えさせた。
- ・ 何が分かればこの問いが解けるのかを考えさせた。

④振り返りシートの工夫

- ・ 毎回の学習記録にうまくいったこと、できるようになったことを書く→単元の最後に振り返りかえさせる。
- ・ 毎回、要点を伝え、「次に生かすため」の振り返りを書かせる。
- ・ 単元シートの最後に単元で学んだことを踏まえて、今後身に付けたいこと、学んでいきたいことを記述。
- ・ 単元シートの活用 → 単元の問題（教科書・教師・クラス・生徒個人で創らせてみた）。
- ・ 振り返りシートの反省の書き方の色分け 赤・・・反省点 青・・・改善点→調整力

⑤ICTとの併用による効率化

- ・ 教員がタブレットを活用して、生徒の学びを可視化
- ・ タブレット活用・・・コメントと評定に関する評価がデータ化できる。

【協議から】

- ・ 粘り強さ（主体的）を見取る方法が書かせることが多いが、「社会的な見方・考え方」が入っているかが大切ではないか
- 定期テストや通知表のための評価では「人間性等」に関する評価はしないが、思いやりとか感性などの評価は個人内評価として、日常の教育活動での声かけやその生徒とのやり取りの中ですることとしている。

・個人差について、A から S に向上していく様子であれば、さらに探究用の課題を作っていくしかないのでは。

*「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

①授業で主体的に学習に取り組む場面を設定しているかどうか

・「粘り強く」「調整しようとする」場面があるか。指導場面があって初めて評価できる。

②授業者がテスト問題を作ることに意味がある。

・授業で学んだことを再構築して、考えさせるのが、思考・判断。思考する材料（知識）があって、思考できる。

③特に「表現力」は大切ではないか

・全ての教科で表現させることが大切。書くことだけが「表現力」ではない。考えていることを出していく、それを観察するのが授業者の役目。

④「主体的に取り組む態度」について重点的に行う単元があってもよいのではないか

・「わかったことは何ですか」を毎時間積み重ねていくと、やがて書けるようになる。教師が拾っていくことが大切

・さらに「学んだことは何ですか」という問いにしていくと良い。

⑤「調整しようとする」は、「試行錯誤している」とも言えるのではないか

・何回やったではなく、「試行錯誤」することが大切

2 GIGA スクール構想によるタブレット活用の実践例

(1)調布市立第四中学校 市川敦子先生の校内研修会 模範授業の実践を通して(別紙)

①タブレット「chrome book」の効果的な活用について

- ・「Classroom」:「jamboard」を使用し、共同作業
- ・調べ学習、検索
- ・スライド作成→発表
- ・「Google foam」で作成した質問の回答をスプレッドシートへ変換し、テキストマイニングを作成、生徒の思考の変化や傾向を掲示（教師）

②実践してみたの課題

- ・生徒は、検索情報が多すぎると、迷う。資料を比較、関連づけていくのが課題
- ・発表スライド作成は、うまくなるが、資料のコピー&ペーストでは、思考が深まらない

③評価について

- ・単元指導計画に基づき、評価規準を最初に示す（ルーブリック）

<成果>

- ・校内研修会で、ベテラン教員が最初に実践を示したことで、校内全体にタブレット等に対するアレルギーがなくなり、学校全体がとても前向きになった。
- ・クラウドの活用について：どこでもつながるのがメリット。生徒が授業でやったことを家庭に持ち帰り、仲間同士でどんどん進化させていくことができる

研究授業 生徒の様子

- ③生徒はやるべきことが分かって、情報量が多すぎて何を調べれば良いか分からない
- 一緒に探したが、膨大な中から生徒が一文を抜き出すのは難しい
- ☆情報の精選が一番の課題

研究授業 生徒の様子

- ⑥評価について
- 取り組み方を評価
- ICT作業
- 調べ方、まとめ方（ジャムボードの付せん）
- 話し合い
- 協働作業
- ◎全作業終了後、生徒に説明
⇒ 個人の作品は紙で提出
(優秀作品は廊下に掲示)

- ・発表方法は、国語科で取り組むので、まかせるのも1つの方法。
- ・情報モラルの課題はあるが、どんどん活用していくのが良い。

(2) 渋谷区立上原中学校 伊藤 郷先生の実践から

①「古代文明の探究学習」

- ・発表会を Teams オンライン会議で実施。グループ内発表は、ブレイクアウトセッションを活用
- ・生徒は発表原稿を One Note に記録。Form で相互評価

②タブレット活用の授業を通して

- ・教師は「Learn from children」の姿勢で。
- ・デジタル教科書を「One note」と併用することで効果的に活用できる。「One note」に、すべての教科の記録を残せる。授業の録画も可能。
- ・デジタル授業とアナログ授業をどのように効果的に組み合わせるか
- ・発表会の様子を録画し、Microsoft Stream で共有し、ポートフォリオとして蓄積

(3) その他の実践例

- ・Teams で家庭学習課題配布→提出：取組状況が瞬時に把握できる
- ・Teams で授業内の意見交換、共有：意見の見える化
- ・「Settera 地理」を毎時間ドリル学習として活用
- ・「Google foam」「Google jamboard」でグループ活動意見交換、共有
- ・生徒会選挙を Teams で実施。

(4) ICT 活用授業について

- ①タブレットを使って手順を知る、情報を調べる、情報を整理する、構想をまとめる、構想を発表する。クラウドの活用により、授業時間は学習時間の一部となる。
 - ・動画の活用について、どの画像を、どの場面で、どのように活用していくかの選択力は、授業力ではないか
- ②オンライン配信について、「学校に来て、授業に参加する」という意味が今問われているのではないか。
- ③「教育機会確保法」施行により、学校以外で行う多様で適切な学習活動の重要性が規定されている。ICT の変化、社会の変化、教育の変化により、「教師」「授業」「学校」が変わる必要がある。「学校でしかできないこと」「学校に通う意味」「学校の存在意義」について今後も考えていく必要がある。
- ④コピー＆ペーストをどのように防ぐか→例) パフォーマンス課題の精度を上げる
- ⑤生徒に「文字を書かせる」ことも重要。書いて思考を整理する過程も大切。

3 地理総合とは 立川国際中等教育学校 山本葉月先生

①来年度より高等学校では「地理総合」「歴史総合」「公共」が必修

- ・「地理総合」「歴史総合」設置のねらいは、「時間認識と空間認識をバランスよく総合する人材育成」

・中学校社会科の学習の成果の上に立って、高校生徒の発達段階を考慮して設置。小中高のつながりの重視。

②中学校と高校との連携

・複数の情報の読み取りが重要。思いついたことを書くのではなく、比較関連づけることで、見えた情報の読み取りを基に、考えて表現することが中学校段階から大切になってくる。

・身近なものに関連づけていく。

4 先進的な実践例

(1)SDG s 研究校としての実践 東大和市立第二中学校 高田裕行先生

- ・取組①「SDG s カレンダーの作成」取組②「教科等横断型カリキュラム」
- ・1年生：「SDG s が達成された東大和市をマインクラフトで表現する」
- 2年生：「テクノロジーの力で社会問題を可決する」

問題意識

先進国側にいる私たちの行動や考え方を
変える。世界が**持続可能な社会**になる
ためには、**当事者意識**をもって社会
の問題に自分ごととして向き合う必要
がある。それを達成できる実践とはど
のようなものか？

⑧LEGOでSDGsの課題解決を目指す (2年生)



LEGO SPiKEを活用して「SDGsの観点で東大和の課題を解決する」というテーマで授業をしました。様々なアイデアを出しテクノロジーの力を活かしてすみずみまで考えました。

⑨Minecraftで仮想東大和を作る (1年生)



④本当に変わるべきは先進国？ (1年生)



4時間目は、青年海外協力隊の経験をもつ先生から衣類ロスの話を聞いて驚きました。良かれと思ってやっていたことが、逆効果なケースもあるので、まずは私たちの考え方や行動を変えていくためにダイアモンドランピングを実施し、私たちの生活で優先的に解決できるSDGsについて話し合い、ランキングをつけました。

<協議から>

・答えが1つでないSDG s のような授業は、結論が出ないので、生徒にもやもや感が残ってしまうのではないかと
→社会科の授業内では無理ではないか。5年後、10年後の自分に向けられれば良いのではないかと。1つの授業では完結しない課題と認識している。
→矢印が「自分」に向くようにしている。「少しでもできることは？」「今できることは？」「一緒に考えていこう」等の声掛けをしている。

・評価はどのようにしていったら良いか

→「事実」と「意見」は分けている。また「根拠」が入っていることが大切と教えている。例えば「SDG s と自分とのかかわり」が書いてあるのが良いと考えている。

・「仮想東大和市」等大きな学習課題である。どのような段階を踏んでいるのか

・組織的に行うヒントはどのようなものか

→一人でやろうとしないことが大切。ほかの先生や生徒たちに任せる感覚が大切なのではないか。

③国際交流の日 (1・2年合同)



3時間目は、国際協力の日をテーマに、フリーチャトルレン、難民を助ける会、JICA、青年海外協力隊をゲストに各クラスごとで出前授業を実施しました。途上国の問題や自分たちとの繋がりについて気がつくことができました。

(2)「令和3年度北方領土オンラインスクール」の実践 中野区立明和中学校 長井利光先生

①趣旨目的

北方領土青少年現地視察事業の代替事業として、各県の中学生を一同に集め、全国の青少年と北方領土元島民、北方領土隣接地域に居住する元島民子弟等の中学生（北方少年少女）をオンラインでつなぎ、元島民の体験談や北方少年少女の思いの聴講、同世代の交流を通じて、全国の理解と関心を高める。

共催：独立行政法人北方領土問題対策協会、北方領土返還要求運動都府県民会議、
北方領土の返還を求める都民会議

②事前指導、オンラインスクール、事後指導

4時間+60分+壁新聞の作成

③今回のオンラインスクールで学んだこと

- ・事前学習により、知識が積み重なり、当日議論することができた。
- ・元島民の方の話はとても良かった。

(3)「身近な地域の調査」の実践 町田市立南大谷中学校 宮川泰之先生

①1年生の時から、Google chromebook を活用して、調べ学習、発表は積み重ねてきた。

3時間は地形図読み取り等。4時間で調べ学習、3時間で発表、地形図確認テスト

②授業のねらいとして（抄）

- 1) 町田市についての関心を高め、社会参画しようとする態度を養う。
- 2) テーマに沿って、町田市の特色と課題、変化の様子とその影響などを明らかにしながら、「地域が今後どのように変わっていくと考えられるか」「地域をより良くしていくためには、どのようなことをしていけば良いのか」を考察・構想するための「創造性」を養う。
- 3) 町田市 PR ポスター等を作成することを通じて、資料を読みとり、有用な情報を選択し、活用する技能を身に付ける。等

③調べ学習の際、重視している点

- 有用な情報を選択・活用する：新しいか、一次資料かどうか
- 積み重ねた結果、「とりあえずググる」から脱却している例)HP、文献との比較等

④町田市 PR ポスター作成（町田市の将来像を考える）

→1人1テーマで行う。

<視点>

グローバル化、情報化、少子高齢化、防災、、環境保全、交通の発達

・chromebook 持ち帰り
OK、使用ルールは徹底する

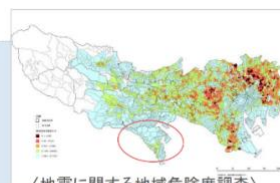
町田市の防災

<自然災害の危険と対策>

- ・土砂災害(土石流、崖崩れ)
⇒ハザードマップの配布

- ・水害(洪水)
⇒総合的な浸水対策

- ・地震
⇒起震車での震度体験訓練
町田市被災建築物応急危険度判定



<地震に関する地域危険度調査>

<出典>
「地震に関する地域危険度測定調査」
https://www.toshisoeki.metro.tokyo.lg.jp/bosai/chousa_6home.htm
「町田市ホームページ」
<https://www.city.machida.tokyo.jp/>

【生徒作品】

